

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	地方道路整備臨時交付金事業					
担 当 課 係 名	建設 課		監理 係		作成者	武藤義彦
総 合 計 画 で の け 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ
	基本計画	国道や県道、生活道路の整備				
	主要施策	市道の整備				32
予 算 費 目	一般 会計		8 款 土木費	2 項 道路橋りょう費	3 目 道路新設改良費	
事 業 期 間	平成 14 年度 ~ 平成 27 年度			新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☒ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等						
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	地域住民及び通行車両等
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	市道神代中央線、栃木六本杉線、観光線の道路改良、舗装工事等を行い道路の安全と利便性を図る。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	拡幅改良、舗装打換に伴う測量業務委託及び工事発注、工事監督、用地補償物件の交渉契約を行う。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績
効果	活動指標	道路整備延長	目標	m	1,336	1,000	1,122
			実績	m	1,090	835	1,096
			達成度	%	81.6%	83.5%	97.7%
	成果指標	整備率	目標	%	18	13	15
			実績	%	15	11	14
			達成度	%	83.3%	84.6%	93.3%
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)
	事業費（人件費を除く）(A)				178,154	188,633	112,110
	人 件 費 (B)		—		5,968	6,134	6,023
		職 員 数	—		0.76	0.76	0.76
		職 員 平 均 人 件 費	—		7,853	8,071	7,925
	(A) + (B) 投下コスト				184,122	194,767	118,133
	財源内訳	国 庫 支 出 金			100,155	104,115	70,541
		県 支 出 金					
		地 方 債			76,900	81,100	41,600
		そ の 他					
		一 般 財 源			7,067	9,552	5,992
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		168,919	233,254
市民1人当たりのコスト(円)		—		5,774	6,195	3,805	

【事務事業の今までの成果】

神代中央線：補償3棟完了、L=1,120m 供用開始
 観光線：L=1,570m 舗装打換完成
 栃木六本杉線：補償1棟完了、L=425m 供用開始

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	今年度より道路特定財源の一般財源化に伴い新たな事業名（地域活力基盤創造交付金）となり、交付期間延長に不安があるため年次計画等の再検討
事業に対する市民の意見 （事業に対する期待、要望、苦情等）	早期完成

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	早期完成が望まれている事業であり継続する。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	これらの路線は主要幹線道路としても生活・通学道路としても重要な路線であり、継続して整備が求められています。

一次評価診断図

